

乳がん患者の予防的切除に保険適用

◆ 遺伝性乳がん患者の発症していない乳房や卵巣の予防的切除に保険適用

2019年12月、中央社会保険医療協議会（中医協）は、BRCA1/2遺伝子の変異による遺伝性の乳がん・卵巣がん患者において、発症していない正常な乳房や卵巣の予防的切除への健康保険の適用を認めた。BRCA1/2遺伝子変異を持つ乳がん患者の両方の乳房を切除した場合や、がんを発症した側のみの乳房を切除した場合に比べて、5年後生存率が著しく改善することが根拠となっている。

20年4月以降に保険収載される予定で、正常な部位の外科的処置に健康保険の適用を認める初めてケースとなる。予防的切除により、高価な抗がん剤治療を行わなくても済むという経済的メリットやBRCA1/2遺伝子変異の保有者のがん発症に対する不安を和らげる心理的効果も期待できる。

◆ がん未発症者の予防的切除に対する保険適用は見送り

一方、がんを発症していないBRCA1/2遺伝子変異保持者の乳房や卵巣の予防的切除に対する保険適用は見送られた。BRCA1/2遺伝子変異の保有者は、生涯にがんを発症する確率が、乳がんが41～90%（変異を持たない人は9%）、卵巣がんが8～62%（同1%）と高率になる。13年に米国の女優アンジェリーナ・ジョリーさんが、BRCA1/2遺伝子変異の保持者で、家族を乳がんがんで亡くしていることから、乳房と卵巣の予防的切除を受けた。それ以来、日本でも、BRCA1/2遺伝子変異保持者が自費（保険外自由診療）で予防的切除を受ける例が増えている。

遺伝子診断などの検査で、病気の発症するリスクを測り、投薬や手術などで積極的に発症を予防する医療を先制医療という。アルツハイマー型認知症でも、検査により高リスク者を選別し、発症前から投薬することで、発症を遅らせることに成功するなど、先制医療への期待は高い。一方、医療費増大への懸念から、未発症者への先制医療に健康保険を適用することへの反対意見も根強い。しかし、将来発症することが高確率に予見され、先制医療による発症回避が臨床的エビデンスにより示されるのならば、先制医療への保険適用は是認されるだろう。

今回の保険適用は歴史的な転換点になるかもしれない。

【毛利光伸】